

特集

こんにちは!

地域おこし協力隊です!



昭和村に吹く新しい風、「地域おこし協力隊」一。

思いを胸に昭和村に移り住んだ、伊藤眞作さんが、地域おこし協力隊として村で活動しています。この地域おこし協力隊の役割や任務、その先の目標をご紹介します。

いとう しんさく
伊藤 眞作 さん (26歳)

出身：神奈川県藤沢市

趣味：旅行、古着屋さん巡り

特技：料理、パソコン

座右の銘：継続は力なり

今まで経験してきた料理店での経験や趣味の旅行で感じてきたことを生かし、地元で愛される名物料理を作りたいと思っています。



道の駅・観光
交流室に勤務



走って通勤!



道の駅「あぐりーむ昭和」の観光交流室に勤務。カウンターには伊藤さんが企画した「昭和村『おいしさ』発見スタンプラリー」の賞品の『ミニだるま』が。スタンプラリーは絶賛受付中ですので、ぜひご参加ください。

河岸段丘ハーフマラソンへの参加を目標に、毎日ジョギングしながら通勤。走ってみると道にゴミが目立つことを実感し、ゴミ拾いしながら走ることに。目的地が近づいてくるにつれ、手にしたゴミ袋はいっぱいになっていました。

地域おこし協力隊

伊藤さんの
奮闘記



↑伊藤さんの活動がFacebookで見られます。地元の話題や隠れた魅力なども発信。ぜひご覧ください。
<https://www.facebook.com/sakusaku.ito>

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊は、国が進めている制度で、過疎や高齢化が進む地方が都会から若者を呼び、定住の支援をしながら、新しい視点や発想を地域の活性化に生かしてもらおうという仕組みです。全国の自治体で導入されています。群馬県内では前橋市をはじめ24市町村で89人が活躍しています。(平成31年2月1日現在)

昭和村が制度を導入

昭和村においても、人口減少や高齢化の波は大きく、担い手不足に悩んでいる地域やコミュニティの維持が難しくなってきた地域があります。今後は、持続的な地域づくりを進めるための仕組みの創出、それを担うひとの存在がますます重要になります。そのため、新しい風となる「地域おこし協力隊」を導入し、地域の維持・活性化を図ります。

その業務内容は、道の駅「あぐりーむ昭和」での企画・運営業務や、村の魅力や取り組みを情報発信する業務、その他、地域活性化のために必要な業務といった分野での人材を募集しています。

伊藤さんが村の協力隊第1号

昨年4月から「地域おこし協力隊」として昭和村に移り住み、活動を始めたのが、協力隊第1号となった伊藤眞作さん(26歳)です。

旅行好きな伊藤さんは、瀬戸内海の離島を訪れた際に、大変そうな田舎での生活を意識。自身に何か手助けできることがないかを考えたそうです。そこで、もともと料理人として働いていたこともあり、食の基本である「野菜」の一大生産地である昭和村に着目。村について図書館などで調べ、地域おこし協力隊を志しました。

そして、昭和村に移り住み、道の駅「あぐりーむ昭和」を拠点に活動が始まりました。実際に住んでみると、交通の便の良さや活気ある村の様子から、思ったより田舎ではないと実感。とはいえ、まだまだ村の魅力を高めて発信していきたいと、日々活動しています。

伊藤さんのこれからの展望は「福島県にも存在する昭和村の地域おこし協力隊員と連携したPR動画を作ったり、村の特色を生かした料理や新商品を開発したりしていくこと」と話してくれました。

道の駅にお越しの際は、ぜひお気軽に声をかけてください。

■問合せ 企画課地域振興係 ☎24-5111(内線141)



地元の川額地区で行われる豊年まつりに参加。写真中央が伊藤さん。皆さんのていねいな指導を受け、伝統の八木節や手踊りを楽しみました。お祭りのクライマックス、つかかけまんどうを目の当たりにし、その激しさに仰天。



仕事以外の活動として、劇団「繭」に所属し俳優に挑戦。今月、利根沼田文化会館で公開される舞台『春駒日記』では、主人公の兄役というとても重要な役どころで出演。気持ちのこもった熱い演技に注目です。



道の駅の「ことぶき亭」では、お店の皆さん協力のもと、新メニュー『こんころまい』を考案。昭和村特産のこんにゃくと、ころっとした大根、まいたけを使った、おいしいうどんが完成しました。ぜひご賞味ください。